

2026 年度 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科
博士前期課程 入学試験問題（夏季） 看護科学域 筆記（専門）

出題の意図

問題 1. 看護倫理・管理学分野

マネジメントに関わる基本的な概念の理解を確認するとともに、関連するマネジメント実践について説明する力を評価するために出題した。

問題 2. リプロダクティブヘルス看護学分野

妊娠期における女性の心理状態をアセスメントする意義および基礎的な知識や理解を問うとともに、論理的に記述する能力を評価するために出題した。

問題 3. 小児看護学分野

小児看護学分野で学ぶためには、子どもの発達に関する基本的な知識を有し、人に説明できる力が必要である。さらに、常日頃から子どもに関わる事象に関心を持ち、子どもが健やかに育つ上での課題に気づき、論じる力が必要であるために出題した。

問題 4. 成人看護学分野

成人看護学分野で学修するために身につけているべき専門基礎知識を有していることを確認する。また、自身の通常の看護実践を言語化して文章でわかりやすく第三者に伝える基本的能力、理論を活用して実践を分析する能力、これらを論理的に記述する能力を評価するために出題した。

問題 5. 療養生活支援看護学分野

認知症のある高齢者の緊急入院という状況を整理し、本人への支援、家族支援、急性期病院の体制について、分析的に説明する能力を評価するために出題した。

問題 6．地域精神看護学分野

日本における精神障害者の地域移行の進展を踏まえ、地域生活を支える家族等の現状について、社会情勢や法制度などの現状を分析的に思考する力、現状から課題を抽出する能力、課題に対して現実的かつ豊かな想像力で対策を導き出す問題解決能力、以上 3 つの能力を評価するために出題した。

問題 7．在宅看護学分野

在宅看護学分野における対象の意思決定に関する専門的な基礎知識と理解を問うとともに、出題の文章を正確に読み取れる力、課題を捉える力、自分の考えを論理的に記述できる力を評価するために出題した。

問題 8．国際看護 / 医療人類学分野

専門職者としての経験を振り返りながら、看護の対象となる人びととの対話あるいは関係性の在り方をリフレクティブな視点を取り入れながら論じられるかを問う問題である。それらを踏まえ、看護がもつ関係構築の豊かさについて、国内外、文化を問わず、普遍的な視点を創造できることは、国際看護／医療人類学領域において重要である。本問は、創造的にものごとをとらえる能力と、論理的に述べる力を評価するために出題した。

問題 9．公衆衛生看護学分野

公衆衛生看護学分野として、保健・医療・福祉に関する事業評価の知識は重要であり、知識を統合し、自身の考え方も含めた記述によって、論理的思考力、文章表現力を評価するために出題した。

問題 10．助産学分野

日本において急激に進む少子化という現象を客観的にとらえ記述するとともに、助産師としての役割を考察、記述できる能力を評価するために出題した。